

工学研究科博士前期課程入学試験の評価方法について

各専攻の評価方法について

| 専攻名 | 評価方法等 |
|----------|---|
| 機械工学専攻 | 志望の動機、卒業研究の進捗状況や研究テーマについての理解度、機械工学に関する専門的な知識等の受け答えから、受験生の論理的思考力や表現力、勉学の意欲、研究に対する熱意、自主性等を評価します。合否は面接試験の結果と出願書類から総合的に判断します。 |
| 電気電子工学専攻 | 面接においては、志望の動機、卒業研究のテーマや進捗状況、電気電子工学に関する基礎（数学、電磁気学、電気回路等）などを質問し、出願書類を加味して、勉学の意欲、基礎学力、論理的思考力、表現力などを総合的に評価します。 |
| 分子素材工学専攻 | 面接では志望する研究分野に関する学識、志望理由、大学院での研究計画等について、総合的に評価します。合否は面接試験の評価と出願書類から総合的に判断します。 |
| 建築学専攻 | 面接試験では、学習への意欲、建築への姿勢、人物・資質の3項目につき試問の上、評価します。なお、合否は面接試験の評価と出願書類から総合的に判断します。 |
| 情報工学専攻 | 志望の動機、勉学の意欲、卒業研究の内容や大学院での研究計画などについて試問し、評価します。また、数学及び情報工学に関する基本的な質問をすることがあります。合否は面接試験の評価と出願書類から総合的に判断します。 |
| 物理工学専攻 | 志望の動機、勉学の意欲とともに、卒業研究の進捗状況や研究テーマについての理解力、論理的思考力や表現力、出願書類などから総合的に判断します。また、物理工学に関連した簡単な計算問題を含みます。 |